



神戸学園都市

ワイズメンズクラブ



THE Y'S MENS CLUB OF KOBE UENTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

< 主 題 >

2019年5月(通巻299号)

- ・神戸学園都市クラブ会長:田辺征一;地域との触れ合いを通してクラブの成長と発展を!
 - ・国際会長: Moon Sang-Bong(韓国);私たちは変えられる。
 - ・アジア太平洋地域会長:田中博之(日本);アクション!
 - ・西日本区理事:遠藤通寛(大阪泉北);未来に残すべきものを守り育てる。
 - ・六甲部長:大田厚三郎(神戸西);六甲部は一つの体。共に助け合い、部全体の発展向上をはかろう。
- 2019年5月:LT;リーダーシップを学んでください! クラブ、部、区、あらゆる機会にリーダーシップの学びの場があります。全てを有意義に捉え、スキルアップし、リーダーシップを身につけて下さい。すべてを楽しんでください。Y'sly 船木順司 ワイズリーダーシップ開発委員長(京都トップス)

5月第1例会

- ・日時:2019年5月16(木)19:00~21:00
- ・場所:西神戸YMCA多目的ホール(3F)
- ・内容:フルーツ演奏会
演奏:フルーツアンダンテ(フルート、バイオリン、鍵盤楽器)
曲目:カノン、ひこうき雲、いちご白書、時代、他
(皆で歌おう)涙そうそう、上を向いて歩こう

< 今月の詩 >

「病気になったら」(前号の続き)

病気になったら すてきな友達をつくろう
同じ病を背負った仲間
日夜看病してくれる人
すぐに駆けつけてくれる友人たち
義理のことばも 儀礼の品もいらぬ
(4頁に続く)

5月誕生者おめでとう

- ・佐伯一丸メン(5/24)

4月の出席状況

・在籍者	14名
・出席者	12名
・出席率	85.7%
・メネ/コメ	3名
・ゲスト/ビジタ	44名
・出席者合計	59名

4月累計ファンド成績

・ニコニコ	2,000円
・CS(年賀切手)	6,300円
・TOF(断食)	5,880円
・FF(家庭の断食)	3,360円
・BF(古切手)	6,720円
・東日本募金	19,600円
・Yサ・ASF	28,000円

[役員] 会長;田辺征一、直前会長;田辺征一、書記;杉本隆人、会計;佐伯一丸、連絡主事;達 直樹

[委員] 地域奉仕・環境;館忠之、丹家元陽、内田邦彦、Yサ・ユース;森本哲男、交流;野呂 隆、阿部信太郎、

ファンド;中村 剛、合田純二、杉本隆人、野呂隆、佐伯一丸、メネット;藤井久子、杉本裕子、EMC;杉本隆人

広報・ブリテン;佐伯一丸、藤井久子、メール委員;田辺征一、

[六甲部役員] 地域奉仕・環境事業主査:藤井久子

[IBC]台湾高雄ポートクラブ(2004年1月締結)

[DBC]東京武蔵野多摩クラブ(2011年5月締結)

[DBC]岡山クラブ(2018年6月)

〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3

TEL078-793-7402

FAX 078-793-7470

事務例会・第1木曜日、第1例会・第3木曜日

Home Page <http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

西日本区ホームページ <http://www.ys-west.or.jp/rd.php>

< 4月第1例会報告 >

書記 杉本隆人

・日時：2019年4月18日(木)19~21時

・場所：神戸YMCA

・出席：内田、合田、佐伯、杉本、達、田辺、丹、中村、野呂、藤井、森本

メネット：合田、佐伯、宗利

ゲスト：44名



家

手作り楽器と漫談

～マエストロ足立さん

足立さんは、学生時代には落語研究会に所属して噺家を目指していたが、何故か卒業後はサラリーマンになった。

もともと南米音楽には興味を持っていたが、特に南米楽器のケーナ（尺八に似た縦笛）の音色に惹かれ、退職して南米に渡ってしまった。現地の田舎では、楽器は売っているものではなく、材料を調達して自分で作るものだった。

ケーナ以外にもサンポーニア（多管笛）、チャランゴ（ウクレレのような弦楽器）の製作と演奏を修行した。

帰国後は学校の先生になったが、趣味でやっていた演奏活動をするうちに、とうとう先生も辞めて本職の「手作り楽器の演奏漫談師」になってしまった。

手作り楽器というだけでなく、リサイクル楽器とも呼ばれる。



ホウキ笛、（スキーの）ストック笛、（習字の筆の柄）サンポーニア、石油ポンプ笛、紙コップ三味線などがある。

落語研究会で鍛えた話し方と手作り楽器（リサイクル楽器）の面白さの両方でお客さんの心を鷲掴みにし爆笑の絶えない演奏だった。



ほうき笛



浮き輪を使ったチャランゴ



足の形をした「足（葦）笛」



いろいろなリサイクル楽器

< 5月事務例会報告 >

書記 杉本隆人

- ・日時：2019年5月9日(木)19:00~20:30
- ・場所：西神戸YMCA
- ・出席者：内田、佐伯、杉本、館、達、田辺、丹家、中村、野呂、藤井、森本
- ゲスト：仁科さん（入会希望者）

以上12名

1. 報告事項

(1) ロースター初稿訂正 宗利ワイズ退会確定

(2) 配布：DBCブリテン4月号 武蔵野多摩クラブ

(3) 関西地区のクラブのブリテン

2. 協議事項

(1) 2019～2020 ロースター原稿 次期クラブ役員 原稿到着日4/15

(2) 次期の会計・ブリテン・グループメール管理への引継ぎ 佐伯ワイズから田辺ワイズ

(3) 今後の例会予定：(年間計画表参照)

・5月16日(木) 19:00～ フルートアンダンテ (公開例会)

ドライバー：杉本

控室 401号室、

送迎：田辺会長、杉本の2台で対応

会場：多目的ホール

集合時間：6時15分

設営でのイスは、教室のイスにて対応することを決定

- ・6月6日(木) 19:00～ 事務例会
- ・6月20日(木) 19:00～ 引継ぎ式、会食

3. その他報告

(1) YMCA 日本語学科狂言鑑賞会

6月5日 湊川神社 ￥1,000

参加〆切5/30

4. 今後の西日本区・六甲部関係行事予定(年間計画表参照)

◎ 準備役員会(現・次期の三役、主査、

会長、連絡主事、監事)

5月18日 15:00 三宮Y

◎ ワイズお越し運動実働委員会

5月27日(月) 18:30～ クラブ代表として野呂ワイズ

◎ 第22回東日本区大会 6/1・2(土・日)、東京 田辺、藤井、杉本が参加予定

◎ 六甲部報原稿〆切 6月20日

◎ 第22回西日本区大会

6/22・23(土・日)、京都

< 新入会員自己紹介 1 >

『 再び学んで他のために 』

内田 邦彦 メン

1943年11月20日生

まれの75歳です、神戸生まれの神戸育ちです。現在は学園都市に住み、妻との2人暮らしです。



定年まで勤めた会社の

社是は「愛の精神の実践と人々の生活に寄与する」でありまして、基本的な経営方針はキリスト教精神を持って会社の経営にあたることでした。

その後、神戸市の外郭団体、障がい者の雇用促進会社に勤め70歳でサラリーマン生活に終止符を打ちました。そして神戸市シルバーカレッジで3年間学び、建学の精神が『再び学んで・・・』です。現在は2ヶ所でのボランティア活動“あいな里山公園”で動植物の生態調査・保護活動と“神戸国際交流センター”で留学生に日本語を教えています。それと地域の福祉活動。趣味のゴルフ・OLDIESのカラオケを楽しんでいます。

数年来、ワイズメンズクラブの活動に参加させていただき、お世話になっている丹家先生からのお誘いもありまして、入会させていただきました。諸先輩諸氏のように献身的に活動するには体力的に自信があり

ませんが、“再び学んで他のために”を實踐して行きたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

< 新入会員自己紹介 2 >

『 飲み仲間を求めて 』

森本 哲男 メン

昭和 22 年 8 月 2 日生
まれで、小学校から大
学までずっと須磨区の
自宅から通いました。



現在は神戸市西区糺
台に住んでいます。駅に近く、すごく便利
です。

子供は息子と娘が 1 人ずついますが、い
ずれも東京在住です。

職歴は、定年までの 38 年間、明星工業(株)

に勤め、国内は北は北海道から南は九州ま
で、転勤や出張が多かったのですが、楽し
く勤めることが出来ました。

趣味はお酒ですが、特に若い女性と飲み
に行くのは楽しいです。

丹家先生よりワイズメンズクラブへのお
誘いを受け、飲み仲間を求めて入会しまし
た。

何もわかりませんが、今後とも宜しくお
願い致します。

< 今月の詩 >

黙って手を握るだけですべてを分かち合える
あたたかい友達をつくろう
またとないチャンスをもたらったのだ
試練がみんなを結ぶチャンスを

病気になったら 必ず治ると信じよう
原因がわからず長引いたとしても
治療法がなく悪化したとしても
現代医学では治らないと言われたとしても
あきらめずに道をさがし続けよう
奇跡的に回復した人はいくらでもいる
できるかぎりのことをして 信じて待とう
またとないチャンスをもたらったのだ
信じるよろこびを 生きるチャンスを

病気になったら 安心して祈ろう
天に向かって思いのすべてをぶちまけ

どうか助けてくださいと必死にすがり
深夜 ことばを失ってひざまずこう
この私を愛して生み 慈しんで育て
わが子として抱き上げるほほえみに
すべてをゆだねて手を合わせよう
またとないチャンスをもたらったのだ
まことの親に出会えるチャンスを
そしていつか 病気が治っても治らなくても
みんなみんな 流した涙の分だけ優しくなり
甘えとわがままを受け入れて自由になり
感動と感謝によって大きくなり
友達に囲まれて豊かになり
信じつづけて強くなり
自分は神の子だと知るだろう

病気になったら またとないチャンス到来
病のときは恵みのとき

晴佐久 昌英 (1957-)

～ 「ポケットのなかの祈り」いのちの言葉社フォレストブックより ～